

沼津市

明治史料館通信

2002.10.25 (季刊 年4回発行) Vol.18 No.3 通巻第71号



戊辰戦争時の奮闘する江川永脩を描いた錦絵（沼津市明治史料館所蔵）

右下には、「御届明治十三年十二月 深川西六間堀町四十五番画工蜂須賀国明 両国吉川町二番地出板人松木平吉」、左下には「応需蜂須賀国明 彫定門人 原田彫末」とある。明治二十九年版では「鎮目瀧造脩忠」となっている人名表記が「清水瀧造脩忠」となっているなど、若干の差異があるが、人物の配置などは同じである。右上の枠内の文章は以下の通り。「大和源氏祖正四位大和守頼親ヨリ実子相統三十四代江川隼太源永脩ハ幕府之軍事掛リ鎮静方頭取タリシガ明治元戊辰年ノ際武蔵下総兩國鎮撫トシテ利根川筋鴻ノ台船橋辺及ヒ其他へ出張シテ多クノ脱士ヲ纏メ説諭ヲ加ヘ朝意ヲ奉選シ主命ヲ守リ勤務タルヲ敵トヲモヒケン数名切掛ルヲ止ヲ得ス白刃ヲ以テフセキ其節右ノ手へ深キヌヲ受ケタルヲモ屈セス鎮撫シ後徳川氏駿州静岡へ転任之際勤続シテ賞ヲ賜ル事兩度ニ至ル後廢藩ノ節一等勤番組命ニ依テ遠州三方原ニ居住シ壯年ノ士ヲ数名集メ数十反ヲ開墾シ又大谷坂破損人馬共勞スルコトヲ患ヒ自費ヲ以道路修繕シ又多クノ窮民ヲ救ヒシカハ朝帝ヨリ賞ヲ賜リシコトハ宮内省御蔵板明治孝節録之内ニモ見ヘタリ」 大きさは、縦36cm、横72cm。ちなみに明治29年発行のものは縦37cm、横73cm。

シリーズ

沼津兵学校とその人材

65

錦絵になった江川永脩

後に静岡藩軍事掛附出役として沼津兵学校に関わった旧幕臣江川永脩（一八二六〜一九〇二）が、慶応四年（一八六八）、官軍に抗戦すべく脱走した旧幕府軍の鎮撫工作に従事し、武蔵・下総の各地に出張、身の危険を犯しながら説得にあたったことは、本誌第69号で紹介した。また、当時の活躍ぶりを描いた、明治二十九年（一八九六）発行の錦絵（周延画）についても、その写真を掲載し、彼が後年に至るまで戊辰時における自身の活動を誇りに思っていたらしいことを説明した。

ところが、江川の戊辰時の奮闘を描いた錦絵は、すでに明治十三年（一八八〇）十二月に発行されていたことが新たにわかった。今回掲げた写真がそれである。図柄は似ているものの、明らかに二十九年発行のものとは別物である。絵師は周延ではなく、蜂須賀国明（二代国明、歌川豊国の門人、明治二十一年五十四歳で没。周延の作品は国明の構図を活かし、リメイクしたも

のであろう。

三枚続きであること、右上に説明文があることは共通しているが、文章は全く同じというわけでない。

戊辰戦争時に脱走者鎮撫にあたったこと、静岡移住後は三方原で開墾に従事したこと、宮内省発行の『明治孝節録』に功績が掲載されたことなど、内容はほぼ同じであるが、文章には若干の違いがある。

明治二十七年の天皇銀婚式に秘蔵の刀剣を献納したことなどは当然記されていない。

明治二十九年の錦絵を紹介した本誌第69号では、江川の錦絵発行の背景には、日清戦争勝利に沸く中、維新の敗者であった旧幕臣にも国家に尽くしてきた国民の一員であるという自信と誇りが生まれたからだとしたが、明治十三年の錦絵の存在はその理由をさらに早めなければならぬ。明治十年代には、ようやく朝敵の汚名が雪がれ、旧幕臣の中にも立身する者が現れたほか、自由民権運動の高揚などにより薩長藩閥の権威が相対化されたといった時代背景がその説明になろう。(樋口雄彦)

ぬまづ近代史点描 ⑤②

沼津港の移り変わり

明治・大正期の沼津港は、江戸期以来の狩野川の川岸港であった。永代橋から御成橋の川岸にかけては石蔵が建ち並び、物資や漁獲物の集散地として、また西伊豆航路の発着港として賑わっていた。

しかし、狩野川上流から流出する土砂の堆積により水深が浅くなるため、常に川底の浚渫を行わなければならない。さらに、大型の船舶は接岸できないため、河口に碇泊し、貨客を小舟で輸送しなければならぬ不便さがあった。

このような状況の下で、大型船も接岸できる施設の整った港を築造しようとする動きが広まったが、沼津市の財政危機や地元負担金問題などから実現できずにいた。

そこで、昭和恐慌下において実施されていた内務省の失業救済事業に採択されるよう陳情したところ、県官事業として実施されることになった。

沼津港が築造されることになっ

た狩野川河口には、大きな河口を持つ観音川が注ぎ込んでいた。この観音川河口に架かる富士見橋を、富士山を背景として望んだ景色は、優れた眺望として絵葉書にも掲載されるほどであった。しかし、沼津港の築造によって、観音川の流れば西側に変えられ、景観は一変することになる。

沼津港の築造工事は、昭和八年に着工し、昭和十二年に竣工した。掘抜式の港湾で、奥行三三〇m、幅一〇〇mの規模であった。

沼津港が竣工した年の『昭和十二年 沼津市勢一斑』(当館蔵)と、その二年後の『沼津市勢一斑 昭和十四年版』(当館蔵)とを比較すると、到着貨物が一二九、七二七トンから二六六、五四五トンに倍増したのがわかる。これは、大型の船舶が安全に接岸できるようになった結果と思われる。

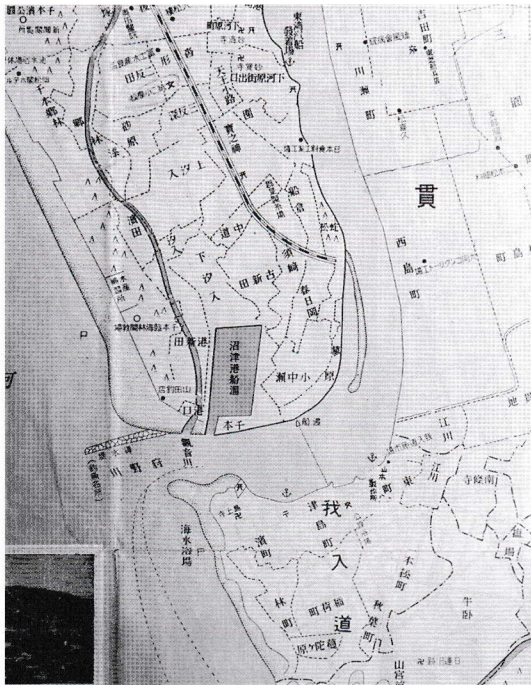
また、沼津港の開港に伴い、沼津駅と蛇松を結んでいた蛇松線の



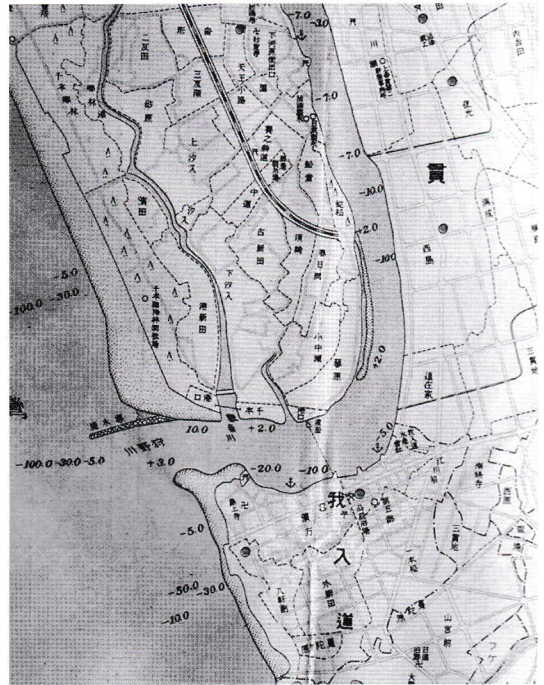
▲川岸港の絵葉書
「沼津御成橋附近の富士」(当館蔵)

路線が、沼津港まで延び、昭和二年には、沼津港線と改称された。こうして沼津港は、海上輸送と、鉄道による陸上輸送の結節点としての役割を果たすことになった。

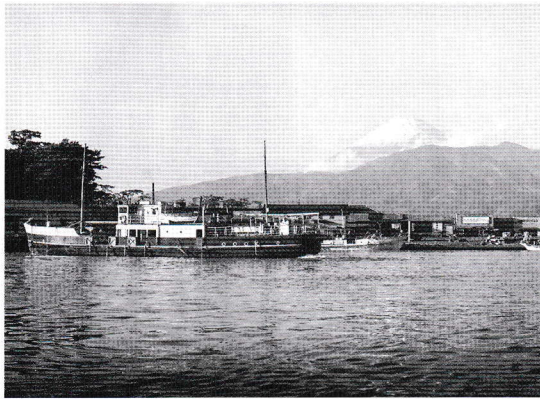
また、狩野川河口から西に延びる導流堤は、沼津港が築造される以前に、土砂の堆積を防ぐために造られたが、黒鯛釣りの観光名所としても有名であった。この導流堤は、昭和二三年から五カ年計画で防波堤に改築された。



沼津港竣工直前の昭和11年の地図
「(最新版)沼津市全図」当館蔵



沼津港築造以前の昭和3年の地図
「沼津市全図」(『昭和三年沼津市勢一覽』折込)当館蔵



沼津港(現在の内港)写真 当館蔵



観音川に架かる富士見橋の絵葉書
「(富士十勝)沼津狩野川より見たる富士」当館蔵

9月に5回にわたって開催した古文書解読入門講座には、36名の受講者があり、くずし字解読に取り組みました。

◎古文書解読入門講座の結果

8月15日に行った「平和を考える親子戦争史跡めぐり」には、小学三年生から中学二年生までの子供とその保護者、9組19名が参加し、市内11カ所の戦争史跡を見学しました。

◎「平和を考える親子戦争史跡めぐり」の結果

8月15日に行った「平和を考える親子戦争史跡めぐり」には、小学三年生から中学二年生までの子供とその保護者、9組19名が参加し、市内11カ所の戦争史跡を見学しました。

お知らせ欄

代2』(二〇〇一年)

〔参考文献〕沼津市郷土研究会編『沼津市誌 全』(一九三七年)、沼津市誌編纂委員会編『沼津市誌 中巻』(一九六一年)、沼津市史編さん委員会・沼津市教育委員会編『沼津市史 史料編 近代2』(二〇〇一年)

この沼津港も、第二次世界大戦後の産業の急速な発展に伴い規模が狭くなったため、昭和四五年には、新たに千本浜側に外港が築造された。

◎企画展「沼津の交通」の終了

7月2日から9月29日まで開催していた企画展「沼津の交通」は無事終了しました。

また、企画展に合わせ、7月21日に開催した歴史講演会「素描・沼津の交通―馬車・鉄道・バス―」にも、58名の受講者がありました。



▶歴史講演会の様子

◎企画展「地図が語る沼津の歩み」の開催

明治以降の近代的な地図は、江戸期までの絵図などと比べ、測量技術の発達に伴い精度面で大きく

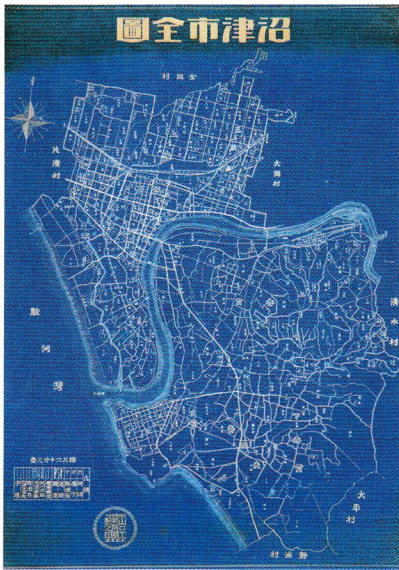
飛躍し、より正確で詳細な情報を表現することができるようになりました。

各時代において目的別に作製されてきた地図は、明治以降に急激な変化を遂げてきた沼津の「歩み」を知ることのできる数少ない歴史史料の一つであるといえます。

これらの地図を比較することにより、沼津における土地利用や産業の変遷、市街地の拡大の過程などを具体的に知ることができます。

地図上の記載内容の変化を通じて、沼津の近代化の歩み、静岡県東部の中心都市としての発展の歴史を振り返ります。

期間・平成14年12月1日(日)～



▶沼津市全図(青焼) 大正14年(渡辺千春氏寄贈)

平成15年2月27日(木)
会場：4階展示室

◎歴史講演会の開催

沼津の市街地の地図や地形図を対象に、「地図を読む」作業を通じて、沼津市の歴史や都市化等を確認してみます。

講師：加藤雅功氏(日本大学国際関係学部教授)

演題：「地図から見た沼津の変遷」

日時：平成15年1月26日(日)
午後2時～4時

会場：当館講座室
定員：一〇〇名、参加費無料
申込み：12月25日(水)9時から
当館まで電話で

◎企画展図録『地図が語る沼津の歩み』の刊行

企画展の図録を刊行します。39点の地図関係史料を収録しました。
規格：B4版・38ページ(内カラー20ページ)

頒価：五〇〇円

◎年末年始の休館

12月28日(土)～1月3日(金)は、年末年始の休館日です。

◎沼津市歴史民俗資料館企画展「凧とおもちや」開催中

凧や玩具には、子どもたちの豊かな成長を願う気持ちが込められています。館蔵の静岡県内の凧及び日本各地の凧を展示するとともに、県内の犬張子や練天神などの郷土玩具も併せて紹介します。

期間：平成14年9月14日(土)～平成15年1月26日(日)

会場：沼津市歴史民俗資料館(沼津御用邸記念公園内)

休館日：月曜日・祝日の翌日・月の末日・年末年始
問合せ：電話 〇五五―

九三二―六二六六

沼津市明治史料館通信 第71号

編集発行 沼津市明治史料館

〒410-0051 沼津市西熊堂三七二―1
電話 〇五五―九二二三・三三三五
FAX 〇五五―九二五三・〇一八
http://www.city.numazu.shizuoka.jp/sisetu/meiji/index.htm